

夏の、ぐんまの川のりと、いろいろ調べてみよう。



川の中、川のまわり。どんな生きものが、いるんだろう？

夏休みの「自由研究」のヒントに！
は、そんな見方でも川のことを調べてみる。最初
も、生きもの調べ！ 近くの川には、どんな生き
ものがいるんだろう？ それを調べることで、り
っぱな研究！ 夏、どんなものを観察して、とど
なふうに調べればいいのか？

用意するもの

- ・たもあみ(えのついでたあみ。えは長いほうがよい。あみは目が細かいとよい。)
- ・セルビム(小さい魚をつかまえる道具。釣具店に売っている。)
- ・釣具(さお、糸、はり、えきなど)
- ・プラスチックの水そう
- ・図かん
- ・ノート
- ・カメラ、またはスプレッシャ帳と色えんぴつなどでカラー
- ・つり方
- ・川の浅いところ、水草のかけ、石の下、砂の中などき、たもあみですくって川の中をよ
- ・川の浅いところ、石をひねります(川の中をよ
- ・セルビムの中へ寄せ、えを入れて、川の底に
- ・しゃげる(小さい魚をとる)
- ・釣具(魚をとる)
- ・探し方(水、魚)を干せ(がいてる)る
- ・魚のえになる魚がいて、そして、魚の



えんぴつなめる虫もいることになり、

調べ方

- ・つかまえた生きものをプラスチックの水そうに入れて、図かんに入れておく
- ・カメラで写真を撮る。または、色えんぴつなどプラスチックでみよ。
- ・生きものの種類、つかまえた場所、日時、時間メモしよう
- ・かたづけた生きものは、もとの川にかえしてあげよう。
- ・あとで、写真やスケッチ、メモなどをまとめて、「川の生きもの」をしよう。

注意すること

- ・つかまえた生きものとならぬいりつてはならない。
- ・雨のあつ、水かさのふえた川には行かない。
- ・川の流れるやいしに近づき、深みのほど近づかない。
- ・はたして川の中に入らぬこと。
- ・「キケン」をしても、遊具板などがあつてはならない。
- ・日差しが強い日は帽子をかぶる。水の中に入る



川で生きものをとったあと、大きめの入れものに入れて、持ち帰る。と、殺菌が足りなくて死んでしまつて、かきれば、れものには電池式のエアポンプを

じっくり、育ててみよう。きざんと、かんさつしてみよう。

のでくは古いスツクなどがよい(底がすべらないもの)。三三は持っていて帰ろう。

魚や川の虫などを育てて、かんさつ日記をつけるのも研究のひとつ。生きもの飼ひ方・育て方はそれぞれ違うので、そのすべてをしようか！ きれいな飼ひ方・育て方の図かんなどで調べて、「日記」は、いくつかのポイントをおさえておこう！

育てやすい生きもの

- ・魚にすれば、水温の低い上流の魚は育てるのがむずかしい。下流の魚が比較的育てやすいが、中流の魚も育てることができると、飼ひ方で注意すること、を調べる。
- ・こん虫には、ヤム、タンゴロワ、ミスアカマキリなどが育てやすい。
- ・アメリカザリガニもじょうぶで、飼ひやすい。

とったあとの持ち帰り方

川で生きものをとったあと、大きめの入れものに入れて、持ち帰る。と、殺菌が足りなくて死んでしまつて、かきれば、れものには電池式のエアポンプを



飼ひ方で注意すること

- ・ついで、持ち帰る。
- ・暑い日には、発泡スチロールの箱に入れて、持ち帰る。
- ・とった魚は、消毒薬(総合魚店に売っている)の入った水の中で四八時間休ませる。
- ・飼ひ方で注意すること
- ・水そうに入れる生きものは少なめにしよう。
- ・ザリガニと魚をいっしょにしない(ザリガニが魚などを食べてしまう)など、入れる生きもの組み合わせを考える。
- ・入れるのは、水運の場合、日あたりのよい場所(一日おいた水を使う)。
- ・水の中に空気(酸素)を入れるため、水そうにエアポンプをつける。ただし、水がろが大きいと、入れる生きものが少ない場合は、水草などを入れて、エアポンプはなくてもよい(その場合、水が深いく、水その下の底ま、酸素がいきとどかないので、水は浅めにいれる)。
- ・中流にすむ魚を飼う場合は、できただけ大きな水そうで、日にかきめ、水をいりつていれる。
- ・エアポンプは必ずつづける。水そうに「年」をおして、すむ場所を、
- ・かんさつ日記のつけ方
- ・飼ひている生きものを写真にとり、あつた日記(日記)。
- ・写真をとった日記の、時間、生きもの、のちうす
- ・日記に書く。
- ・写真だけでなく、絵を入れてみよう。
- ・どんなえんぴつをあけていれるか、水の温度なども書く。

